

## 事業(会務)報告

## 1. 会員の状況

2019年3月1日現在の社員(会員)総数は、9,935名で会員の種別・増減内訳は下記のとおりである。 注:( )内は、2018年3月1日現在の会員数を表す。

会員総数	9,935名	(9,964名)	-29名
種別内訳:			
一般会員	8,458名	(8,560名)	-102名
評議員	1,000名	(1,011名)	+11名
名誉会員	60名	(56名)	[国内33名(29名) 国外27名(27名)]
功労会員	169名	(157名)	+12名
購読会員	248名	(180名)	+68名

## 年間会員増減:

(2018年3月1日～2019年2月28日)

⊕ 新入会	353名	(385名)	-32名
⊕ 再入会	9名	(6名)	+3名
△ 退会者	400名	(427名)	-27名

(定款第9条第1号希望退会者 224名, 同条第2号による退会者 176名)

## 2. 2018年度事業報告

## 1) 総会・学術集会

## 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会

2018年4月26日 ～ 4月28日 東京都千代田区 会長 齋藤知行

## 2) 支部学術集会

第28回北海道・東北支部集会	11月 17,18日	札幌市	会長 岩崎倫政
第29回関東支部集会	12月 8日	港区	会長 西村慶太
第30回中部支部集会	8月31,9月1日	名古屋市	会長 永谷祐子
第28回近畿支部集会	9月 1日	大阪市	会長 田中康仁
第29回中国・四国支部集会	11月30,12月1日	高松市	会長 猪尾昌之
第55回九州・沖縄支部集会	3月 3,4日	那覇市	会長 金谷文則
第56回九州・沖縄支部集会	9月 1,2日	佐賀市	会長 多田芳史

### 3) 理事会

2018年度定例理事会を5回開催した。主要審議事項は次のとおり。

(定時理事会は土曜日または日曜日に開催)

#### 第1回理事会(4月25日水曜)

定例評議員会, 総会承認事項の審議(事業報告, 決算・監査報告, 予算審議, 名誉会員・功労会員・評議員の選任, 第65回学会長選出, 規則・内規の一部改定), 新委員会の設置, 新専門医制度, 新規承認薬のガイドライン, 教育助成プログラム, 事務局移転について等

#### 第2回理事会(7月7日土曜)

第62回学術集会収支報告, 第63回学術集会準備状況, 選挙管理委員会委員の委嘱, J-OSLERの利用, 生物学的製剤ガイドライン改訂, 移行期医療委員会の設置, 各支部学術集会予算, 委員会構成について等

#### 第3回理事会(8月19日日曜)

2018年度教育施設認定, 第9期理事選挙実施要綱, 第62回学術集会の収支・結果報告, 第63回学術集会準備状況について, 新専門医制度, 各ガイドラインの改訂, 各支部学術集会予算, 中央教育研修会でのランチョンセミナー実施, ガイドライン委員会(仮称)の委員構成, 事務局移転について等

#### 第4回理事会(11月4日日曜)

第63回学術集会準備状況, リウマチ専門医研修システム/新専門医研修計画応募状況, 北海道胆振地震に伴うAPLAR travel grant 救済措置, カナキヌマブ使用ガイドライン, 登録ソノグラファーの新規登録および更新の審査結果, 関東支部/北海道東北支部関節エコー講習会予算, 学会賞選考代理委員, 厚生労働省我が国の関節リウマチ診療の標準化に関する臨床疫学研究からの依頼, 2019年度予算, GSK 医学教育助成事業の採択について等

#### 第5回理事会(2月2日土曜)

2019年度定例評議員会・総会の日程, 2018年度決算および2019年度予算, 指導医・専門医の認定, 新専門医制度における認定教育施設の承認, 第63回学術集会開催準備状況, 第66回学術集会(2022年度)学会長推薦, 第67回(2023年度)学術集会会場, 名誉会員・功労会員・新評議員の推薦, 役員選任内規の改定について, PMS 対象薬剤の中間解析結果, 関節超音波講習会の開催規則制定, 倫理委員会の調査結果, 関東/九州沖縄支部学術集会予算, 学会ホームページのリニューアル, 「AI 技術が切り拓く新たなリウマチ学に向けた教育シンポジウム」の開催について等

### 4) 学会誌

- (1) 学会誌 Modern Rheumatology (MR) を年6回定期刊行, およびオンライン版 MR Supplement (学術集会英文抄録集) を年2回刊行した。
- (2) 編集委員11名を含む Transmitting Editor 合計36名にて電子投稿査読システム Editorial Manager を活用し, 投稿論文の公正かつ速やかな査読行程に努め, 掲載論文の質の向上に努めた。
- (3) 2017年の Impact Factor (IF) は1.955, 5年 IF は2.074 であった。

- (4) Modern Rheumatology Case Reports (MRCR)は2018年7月16日にMRCR 2-2号, 2019年1月8日に3-1号を発行, それぞれ22編, 18編の論文を掲載し, 創刊からこれまでに95編の論文を出版した。
- (5) 6月にEULAR(アムステルダム), 9月にAPLAR(高雄), また10月のACR(シカゴ)でJCRのブースを出展し, ジャーナルのプロモーション活動を行った。

## 5) 専門医制度

- (1) 2018年度から基本領域学会で開始された新専門医制度に向け, 一般社団法人日本専門医機構(機構)へ, カリキュラム制による研修期間3年以上とした「リウマチ専門研修整備基準」を提出し承認を得た。また, 当学会を含むサブスペシャリティ領域でも2019年度から新制度が開始されることに伴い, 整備指針に沿った「新専門医制度規則」を策定。既存規則についても研修期間を5年から3年とする改正規則を施行した。
- (2) 2018年度認定の教育施設として, 新規25施設, 更新157施設を認定した。この結果, 2018年9月1日時点での日本リウマチ学会認定教育施設は595施設(前年比+15)となった。
- (3) 第32回専門医資格認定試験を2019年1月20日(日)にソラシティカンファレンスセンター(東京)で実施した。受験者は312名(前年159名)で, 合格者は259名(同119名), 合格率は83.01%(同81.76%)であった。
- (4) 2019年3月1日付けで専門医・指導医の資格更新の認定を行った。リウマチ専門医は4,886名(前年比+154名), 指導医は1,627名(同+202名)である。特に指導医は2016年度の規則改定以降着実に増加している。
- (5) 専門医研修カリキュラムを適宜改訂した。また内科学会, 整形外科学会, 小児科学会等の研修プログラムを参照したうえでリウマチ学会独自の専門性の高い研修プログラム作成のための準備を進めた。
- (6) 新専門医制度で研修を実施する認定教育施設の募集を行い, 初年度は280施設から応募があり, 268施設が認定された。

## 6) 国際化の推進と若手の育成

- (1) 国際シンポジウムは「シンポジウム国際委員会企画」として3セッションを企画し, 計14の講演が行われた。
- (2) 国際コンカレントワークショップは, より多くの聴衆に興味をもってもらうために年齢制限は設けないようにし, またBasic/Clinical関係なく内容別にセッションを振分け, 1枠60分前後とし22枠設けた。
- (3) 62回学術集会において「JCR 2018 Travel Award」を募集した。Awardには12カ国43名から44演題の応募があり, 8カ国から20演題(20名)を選出した。また, 若手会員(45歳未満)を対象とした「国際ワークショップ優秀演題賞」は, 審査対象97演題をJCR国際委員会および国際委員会サブコミッティによる査読の結果, 29演題(29名)を選出した。
- (4) 「JCR-EULAR若手リウマチ医トレーニングプログラム2018」を企画し, 応募者の中から長期トレーニング希望者1名, 短期トレーニング希望者1名を選出した。

長期トレーニングプログラム選出者には助成金として 300 万円，短期選出者には 1 ヶ月 40 万円（最大 3 か月）が支弁される。

- (5) 国際的に活躍できる若手リウマチ学研究者の育成を目的とした「JCR 国際育成セミナー2018 (JCR International School 2018)」を 8 月 2～4 日，軽井沢プリンスホテルウエストにおいて開催した。
- (6) APLAR 2018 (高雄) に演題投稿した 45 歳未満の JCR 会員を対象にしたトラベルグラントを実施し，31 名にトラベルグラントとして 8 万円/名を支弁した。
- (7) 海外関連学会との連携，JCR の広報を目的として APLAR (高雄)，EULAR (アムステルダム)，ACR (シカゴ) に JCR のプロモーションブースを出展した。

#### 7) 教育研修会の開催

- (1) 全国規模の教育研修会として，4 月 29 日にアニュアルコースレクチャー（東京国際フォーラム），8 月 26 日に全国中央教育研修会東京大会，12 月 9 日に同大阪大会を開催した。
- (2) 第 4 回ベーシックリサーチカンファレンスを 11 月 2 日(金)，3 日(土)にアキバホールにおいて開催した。今回のカンファレンスには 198 名(有料参加者数)が参加し，特別講演や教育講演，また次世代リーダーセッションのほかポスターセッションなどが行われた。特別講演には水島昇先生と長田重一先生という生命科学の世界のトップリーダーの先生をお招きし，教育講演では，基礎研究推進委員会や外部のエキスパートによる講演を行った。ポスターセッションには，昨年を上回る 61 題の演題が集り，事前審査により優秀な 6 演題を優秀演題賞として選出し，優秀演題セッションでの口頭発表を行った。また，ポスターを前にして活発な討論が行われ，5 演題をポスター賞として選出した。優秀演題賞に選出された 6 演題とポスター賞に選出された 5 演題は，ポスターセッションの最後で表彰を行った。
- (3) 各支部主催による「関節超音波初心者向け講習会」を実施した。開催にあたっては関節リウマチ超音波標準化小委員会で策定した「関節超音波検査初心者向け講習会開催指針」に基づき実施され，関節超音波の普及を推進した。
- (4) 10 月 6～8 日に関節エコーの上級者を対象とした「関節超音波検査講習会アドバンスコース」を開催した。アドバンスコースには全国から 40 名が参加。リウマチ性疾患の確定診断・鑑別診断，治療効果判定，寛解判定においても多くの臨床情報が得られる関節超音波診断学の高度な技術を習得できる講習会となった。
- (5) 2014 年度から開始した「登録ソノグラファー」制度は，本年度，関節超音波検査に関する十分な学識と経験を有する医師及びコメディカルスタッフ 70 名を新たに登録し，79 名の登録更新を行った。

#### 8) その他

- (1) 臨床研究推進小委員会，AI 医療推進小委員会および移行期医療推進委員会を新たに立ち上げ活動を開始した。また市販後調査検討小委員会は第 2 部会を組織し，より専門的な助言ができるような体制を整えた。
- (2) JCR で作成したガイドラインがそれぞれ別々の方法，別々のレベルで作成されているという現状を鑑み，各ガイドラインを統括する「ガイドライン委員会」を設

置し、その下でそれぞれのガイドラインを作成していくことを検討した。ただし日本医学会が示す「診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス」を踏まえ、委員会の構成とその名称については継続して検討することにした。

- (3) 学術集会の演題投稿時に倫理委員会の承認や IC の取得有無を申告させるシステムを設置し、第 63 回学術集会から実施した。
- (4) 学会 HP を 11 年ぶりにリニューアルし、学会からの情報発信手段としての機能を高めた。
- (5) 西日本豪雨ならびに北海道胆振地震で被災された会員に対する年会費免除などの特別措置を実施した。
- (6) 第 9 期理事候補選挙を実施し、今回の選挙より全立候補者の得票数を選挙人へ公開した。
- (7) 学会事務局所在地（虎ノ門 1 丁目地区）の都市開発に伴い事務局を港区虎ノ門から同区浜松町へ移転した。

### 3. 2019 年度事業案

#### 1) 総会・学術集会

- (1) 第 63 回日本リウマチ学会総会・学術集会を 2019 年 4 月 15 日(月)～17 日(水)の 3 日間、京都国際会議場（京都市左京区）において山中寿会長のもとで開催する。
- (2) 第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会（2020 年 4 月 23 日～25 日、グランドプリンスホテル新高輪）の準備を、石黒直樹会長のもとで進める。

#### 2) JCR 学会誌

- (1) MR 論文の質の向上と引用の増加を図り、更なる国際的展開を進める。
- (2) Taylor & Francis 社の下、安定した出版/発行に努め、年 6 回定期発行する。
- (3) 英文抄録集は学術集会の演題登録時に英文抄録を義務付け、MR Supplement として年 1 冊/回オンライン PDF 掲載として発行する。
- (4) 国際学会にて MR および MR CR のプロモーション活動を精力的に行い、欧米からの投稿数増加を促す。
- (5) MR CR は PubMed/MEDLINE への年度内収載を目指し、インパクトファクターの取得に向けてジャーナル内容を充実させる。

#### 3) 専門医制度

- (1) 専門医制度委員会が恒常的に行ってきた指導医の新規認定・資格更新業務、教育研修会の認定業務を引き続き実施する。
- (2) 機構が示す「専門医制度整備基準」に則り、新専門医制度による研修開始に向け、日本内科学会、日本整形外科学会および日本小児科学会等の基本領域学会、内科系 subspecialty 13 学会と連携し準備を進めていく。
- (3) 2018 年度専門医資格認定試験を 2020 年 1 月 19 日(日)、ベルサール神田（千代田区神田美土代町）で実施する。

#### 4) 国際化の推進と若手の育成

- (1) 一層の国際化推進のため、学術集会での英語セッション枠を増やしていく。

- (2) 海外の45歳未満を対象としたJCR Travel Award（アジア諸国一人1,000 USドル、アジア諸国以外一人1,800 USドル）を継続して実施する。また、同じく45歳未満の会員を対象とした国際ワークショップ優秀演題賞（ICW Excellent Abstract Award）も継続して実施する。
  - (3) JCR International Advisory Board Meeting を第63回学会・学術集会期間中に開催する。
  - (4) 2019年度JCR-EULAR若手リウマチ医トレーニングプログラムの募集を行う。
  - (5) 国際的に活躍できる若手リウマチ学研究者を育成するための国際育成セミナーを開催する。
  - (6) APLAR 2019 ブリスベン、オーストラリア（2019年4月）に演題投稿したJCR会員を対象にトラベル гранトとして10万円を支弁する。
  - (7) 学会広報活動として、APLAR, EULAR 及びACRにJCRのブースを展示する。
- 5) その他
- (1) AI教育の推進を目指し、「AI技術が切り拓く新たなリウマチ学に向けた教育シンポジウム」を東京、大阪、福岡で開催する。
  - (2) 臨床研究のレベル向上と臨床研究法に準拠する形での知識の共有化を図ることを目的に、プロトコル作成をon the jobトレーニングで行う合宿形式の研修を実施する。
  - (3) 理事改選に伴い、検討が必要と思われる事項を申し送り事項としてまとめ、次期理事会への引き継ぎを行う。

付記：評議員会及び社員総会の議案資料

第1号議案 2018年度事業報告および2019年度事業計画

第2号議案 2018年度(2018年3月1日から2019年2月28日)決算書

第3号議案 2019年度(2019年3月1日から2020年2月29日)予算書

第4号議案 関節超音波検査講習会開催規則の制定

第5号議案 第9期役員（理事）の選任

以上の議案を別冊として評議員会及び社員(会員)総会の開催案内と共に事前に会員各位に送付した。